

みなさん、おはようございます。白河厚生総合病院附属高等看護学院の学校紹介をさせていただきます。

JA 福島厚生連は「地域に根差した医療・地域を支える医療・地域が求める医療」という3つの柱を基に「保健・医療・福祉事業を通して、農家組合員・地域住民の健康を守り、豊かな地域作りに貢献する」ことを理念としています。本校はこのJA 福島厚生連の目指す医療に基づく看護師育成の場として、昭和26年に開設されています。その使命は、「患者に信頼され選ばれる病院」の一員として、地域住民に最良の医療を実践する知識・技術・態度を備えた看護師を育成することです。

本校はH21年白河市豊地に新築移転し4年目を迎えます。現在、撫子や女郎花の花々が色を添え、緑豊かな学校として学生の心を癒しています。

学生は1学年定員30名で、現在91名が勉学に励んでいます。男女別では男子15名、女子76名、社会人は10名います。看護師国家試験合格率は、過去5年間平均97.4%でほぼ安定しています。卒業生の進路は、約9割が病院への就職、1割前後の学生が大学編入や助産師学校へ進学しています。

教育体制は、教職員11名、院内外講師63名、実習指導者37名で教育にあたっています。実習施設も充実し、白河・塙厚生病院、ティーンズセンター、保育園、養護学校、保健センター、地域包括支援センター・訪問看護ステーション、障害者就労サポートセンターなど地域の皆様のご協力を頂きながら実習をしています。

また、手話サークルやハンドベルサークル、ボランティアサークル等の学生活動も活発です。現在は、11月に開催されるしらかわJAまつりに向けて、1年2年全員でよさこいを披露するため連日練習をしています。

3年間で看護師国家資格を取得するという事は、現実的にカリキュラムが過密で大変なことです。しかし、「看護師」という職業を目指し、目的をもつということはその人を強く逞しくしています。苦しい、辛いと言いつつも3年間頑張り通した学生は誇りと自信に満ちて臨床という現場に巣立っていきます。

それでは、ここで看護学生の病院実習での体験記録を紹介したいと思います。

「今回初めて受け持ち患者さんをもつということで、とても緊張した実習だった。また、失語症がある患者さんと聞いていたため、まったく話すことが難しいのでは？と先入観をもっていた。そして、昼食の時コミュニケーションを図ろうと思ったが、どこまで話せるのか、話しかけていいのかわからず、全然コミュニケーションをとることができなかった。そのことを看護師さんに相談し、午後は勇気を出して話してみた。患者さんは思っていた以上に話せる方で、とても明るくゆかいな、闘病意欲のある患者さんだった。私は、先入観を持たずに相手のことを理解したい、患者さんの思いを受け止めたいという思いが大切であることを学んだ。また、患者さんから「男子一人ですごい。一緒に成長していこう」と言われ、とてもうれしくて泣きそうになった。今日の実習で、この患者さんと一緒に成長したい。この患者さんのために援助をしたいと心から思った。(3日後)入浴の介助をして・・・患者さんから「気持ちいい」という言葉をもらい、私は患者さんのために少しでも役に立つことができた。そう思うと、とても心が温かい気持ちになった。そしてこれからも頑張ろうと思った。この時私は、患者さんを支えることで、私も患者さんから支えてもらっているという思いが生まれた。さらに、「一緒に成長しよう」という言葉が浮かんできた。私は、心から患者さんと指導して下さった看護師さんに感謝の気持ちでいっぱいになった。」

いかがでしたか？1年生の看護学生Yくんが精一杯看護に向き合おうとしている姿が想像できたでしょうか？

看護師という職業は24時間365日医療を受ける人々のそばで寄り添い、支える職業です。この学生のように患者さんをケアしようとして、実は患者さんに教えられ、育てられ、結果として自己成長していくすばらしい職業です。

福島県では看護師が大変不足しています。一方、「福島県の医療を支えたい」と真剣な眼差しで進路を考えている高校生も多くいます。今私たちは一人でも多くの高校生や若者が看護師を目指してくれることを願っています。本校では、個人・団体いずれも随時学校見学を受け入れ、開かれた学校を目指しています。希望される方は遠慮なくご連絡ください。

白河厚生総合病院附属高等看護学院はこれからも「地域の皆様に愛される看護師」育成を目指していきます。